

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170501795), 法人名 (三愛商事株式会社), 事業所名 (グループホーム 里の家平岸 あじさい), 所在地 (札幌市豊平区平岸5条12丁目1番26号), 自己評価作成日 (令和元年6月1日), 評価結果市町村受理日 (令和元年7月24日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kani=true&JigyosyoCd=0170501795-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年6月24日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したもとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みの家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、平岸地区の高台で大きなマンションや古い戸建が並ぶ閑静な住宅地にあり、周囲には大きな公園もあり、地下鉄や路線バス等の交通の利便性にも恵まれた環境下に立地している。開設は2002年で、当時から建物は堅牢な3階建てであり、各階に1ユニットが入り、3ユニット計27人の高齢者が生活を共にしている。当事業所の優秀な点は、最初に介護に対する意識の高さを挙げたい。管理者を含め職員は、個別化と平等を介護の柱として据えており、利用者が選択できる介護を指向している。具体的には毎日が可能な入浴体制の維持であり、希望をお願いできる食事内容、買い物や外出が可能な週2回の外出車の用意等々、自宅からの延長として今の生活を続けてもらう事、を基本とし取り組んでいることを秀でた点として推挙したい。母体法人も認知症ケアについて理解を示しており、単に衣食住を提供するにとどまらず、週2回各ホームに運転者付きの車を用意し、必要な外出を全面的にバックアップしており、気軽な外出は事業所の大きな拠り所となっている。また隔年に義務付けられている外部評価についても、外からの評価は必要不可欠として、毎年実施し、その都度自己評価の徹底を図り、外部からの意見を受け止める姿勢を高く評価したい。開設後16年が経過し、近隣の住民と密接な関係を築き、地域の他事業所や医院、薬局とも相互の協力関係を維持し、認知症の基幹事業所として着実に歩んでいる当事業所に、これからも大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目 (Item description), 取り組みの成果 (Achievement), 項目 (Item description), 取り組みの成果 (Achievement). Rows 56-62 describe various service outcomes and achievements.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は介護の基本にも通じていると解釈し、日々のケアに反映するよう取り組んでいる。単純に、毎朝唱和するだけではなく、折に触れて管理者より日常の中で具体的に実践できているか見直しがある。	理念は4項目を基本として事業所内に掲示し、唱和して日々確認しているが、具体的な実践でどの様に活かせるかを常に検討し、理念が介護の中心になるよう、毎年テーマを決めながら取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	主に管理者が町内の新年会や総会、資源回収などに参加して地域の方々と交流し親睦を深めている。管理者に限らず職員や入居者も地域の避難訓練や避難場所への散歩などに参加している。	地域住民との交流は良好に続けられており、町内会の親睦会等に参加している。地域からのボランティアも受け入れており、また近隣の中学校の職場体験も恒例となる等、開設以降16年間の地道な活動が成果に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでも認知症特有の症状や対応方法について説明することもある。見学や相談に来た方に対しても保険制度や対応方法の質問を受けることは多く、都度わかりやすい説明を心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には他事業所の管理者や、他施設に従事する家族の参加もあり事業所単位といった幅広く客観的な話し合いも行なわれている。貴重な意見は可能な限りサービスの向上に繋がるよう努めている。	地域代表を含め各層の参加者で推進会議を定期開催している。近隣の同業者にも声を掛け、会議の充実を図っており、議事内容も行事報告から事故やヒヤリハットまで含んでおり、開かれた事業所として地域に発信している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者が担当し、区の生活保護課や市の事業指導係、包括など以前から困難事例や質問などに対してアドバイスをもらう、相談するなどの協力体制がある。相互にとって良好な関係が継続されている。	介護保険の疑似解釈や生活保護の疑問点等々、区役所や介護保険課の担当者と信頼性の高い関係が築かれており、訪問や電話等で良好な関係を継続・維持している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部の定期的な研修があり、参加していない職員に対しても研修内容の伝達に努めている。防犯上、施錠が基本だが状況によって玄関ドアを開放し自由に行き来しており、施錠されている時でも希望があれば解錠し見守りを行っている。	拘束廃止適正化委員会を運営推進会議に併せて開催し、詳しい報告を行っている。職員に対しては直近の会議で具体性を含めて報告している。また年間の研修にも拘束については組み込んでおり、拘束や抑制とは無縁なケアに事業所全体で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議内で些細な事柄であっても議題として取り上げ話し合っている。職員同士で注意し合う事も重要であると共に、リーダーが中心となるチームワークや、職員間での関係性も虐待予防に繋がる重要な要素と考え取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者が家族や入居者に対し制度の紹介や利益となるようなアドバイスを行なっている。職員は外部研修で学ぶ機会はあるものの制度の提案をしたり紹介するのは管理者が担っており、あくまでも予備知識といった認識となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っている。日常においても職員も家族等から質問を受けた時は説明を行っている。それでも理解できないような場合は管理者から改めて説明をしてもらい、不安の解消に繋げている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や入居者が意見や要望があった時に職員や管理者に対し話しやすい環境が整っていることを目的とし面会時、電話での近況報告などで会話する機会を大切にし良好な関係性の構築に努めている。	職員は家族との会話の中から、意見や要望を聞き取り、より快適な生活ができるように努めている。毎月のお便りはユニット合同となっているが、個別の写真も掲載し、家族との良好な関係を維持している。	毎月のお便りが、3ユニット合同となっており、利用者個人の情報量が充分とは思えないために、お便りに個別なお手紙や写真を同封するなど、利用者の生活をより多く発信できる様、今後の取り組みに期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見のある職員は、管理者に直接意見を述べている。思っていることを話し易い環境や関係作りが出来ている。その意見を管理者は会議を通じて代表者に伝え、意見が反映されていることもある。	業務の見直しや過不足点について、管理者やリーダーは常に興味を持って業務遂行に努め、会議等での職員の意見を尊重し、定期的に職員との面談も行い、意思疎通が常に確認できる様に、管理者・リーダー等職員各自が意識して取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の希望する労働条件などに対し、可能な限り希望に沿うよう配慮されている。定期的に管理者と面談があり、職員個々の思いや悩みなど話せる機会にもなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の力量を見極めて、その職員に見合った研修を促している。日常の中で、働きながら知識や技術が学べるよう、特に高齢の職員にはその都度、又は繰り返しアドバイスをを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近隣の施設との関係作りを継続して行っており推進会議などにも互いに参加している。職員は入居者と共に近隣の施設に訪問し体重計を借りるなどし協力を得て、サービスの幅を広げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が事前に要望等を聞き取り、職員に周知され、サービスの利用と共に職員は直接本人との関りの中から柔軟に対応し安心感が得られるような関係が作れるよう関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様に事前に不安なことや要望を管理者が聞き取り、その情報を基に職員は家族と一緒に協力しながら不安等を取り除けるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の希望に沿い、支援内容を検討するが、実際の支援内容と本人の様子を照らし合わせ、柔軟に支援内容を本人にあったものに変更し対応する場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の苦手な職員を手伝ってあげなければ等と、入居者もここでの暮らしの中心人物となって活躍している場面が多々あり、介護されるだけではない生活をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに本人の様子を家族にこまめに伝えるようにしている。本人の様子がわかった上で受診や外出など家族が連れて行ってくれることもある。ホームで一緒に昼食を摂りながらゆったりと過ごしている日もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から情報を得て、外出行事とし実現に取り組んでいる。昔からの友人がホームまで訪ねて来る場面も多く、個人情報に配慮しながらそのような場面を大切に継続できるよう努めている。	外出の機会が多く、利用者の馴染みの場所や思い出の地、経歴や家族の意見に基づく地域や景色を継続的に訪れており、友人の訪問やまた馴染んだ味覚等々、今まで培ってきたものが途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理にではなく、さりげない形で入居者同士がふとした所で支え合っている場面が多く見られている。特に重度の方は孤立せずに、輪の中に自然に溶け込めるよう職員が橋渡しをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族から相談があれば随時応じている。家族だった方が職員として働いてくれるようになったこともあった。良好な関係を保てるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話から本人の思いを聞き取り、表情や反応からも希望の有無を汲み取っている。また、家族や知人からも話を聞き、本来の本人像やあるべき姿をアセスメントすることも大切にしている。	毎日の生活を支える中から、意向や思い、願い等を把握し、職員で共有している。今後訪れる最終的な場面での希望もタブー視することなく積極的に聞き取り、より本人本位の生活になるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族などから聞き取っている。また以前利用していた先の相談員に情報を提供してもらうなどし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録に記載したり、職員同士で口頭でも情報伝達し合いながら、こまめな情報交換をして、些細な変化を見逃さないよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の観察をカンファレンスに持ち寄り職員主観ではなく本人主体を意識したプラン作成に努めている。評価と立案では事前に家族から意見や要望を確認しており、主治医や看護師からのアドバイスも反映するよう考慮している。	個別化と平等が事業所の骨子であり、介護計画は独自のアセスメントシートを活用して個人の特性を引き出し、医療面や家族の思いも反映させながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入するだけでなく、職員間での申し送りノート等も活用し、本人に有益となるような事柄を共有し実践するために役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、本人や家族の状況は変化するため、その都度柔軟に対応している。外出行事などは当日に予定変更する場合も多いが入居者が楽しめるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新聞や広告を閲覧し、その方に合った催し物や行事に気軽に参加し、楽しめる場が提供できるよう積極的に地域資源を活用している。毎年、楽しみにしている催し物もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力もあり本人や家族が希望するかかりつけ医への受診が対応できている。又、緊急時や必要時、主治医からの紹介があった場合にはすみやかに医療機関へ受診できるよう支援している。	入居前からの主治医にお願いしている場合もあるが、重篤になった場合の関係もあり、主治医は往診可能な医師がほとんどを占めている。往診の場合は事前に資料を送るなどで、より効率的な医療になるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特に毎週接する訪問看護師とは相談する機会は多く、些細な事でも伝えアドバイスを受けて日々の介助に役立てたり、より良い看護を受けることが出来るよう関係を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は、対象者が頑張れるよう仲の良い方を中心に手紙を書いたり、お見舞いに行くなどして励まし入居者も一緒になって早期退院に繋がるよう努めている。病院との連携は主に管理者が行っており、ホームの退居要件の説明や退院後の医療連携など行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをした方の話題になり、日常の会話中でも本人と最期をどのように迎えたいかといった話しをする場面で、その都度本人の希望を聞いている。家族には入居時には管理者から説明がある。	看取りについては、入居前から書面で説明し同意を得ている。利用者本人への確認も、さりげない会話から、また直接的に話したりと個々の状況に合わせて確認し、記録している。また事前の研修や事後のフォローアップにも力点を置いて看取り介護に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や特変時のマニュアルがある。マニュアルを基に急変時は状況に合わせた対応を行い、その場に居合わせなかった職員は記録を参照するなどして実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難訓練は定期的に行われており防災用品や非常食の管理も訓練時に行っている。実際に地震があった時は町内の方が心配し駆け付けてくれ地域の協力を得ることが出来ている。	災害訓練は2ヶ月に1度、年6回程各種の想定で行っており、避難所も近隣のお寺にお願いしている。昨年の地震・停電の際は、近隣から差し入れや励ましがあり、地域住民の協力は職員の大きな力となっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しくなっても、礼儀をわきまえた言動になるよう努めている。また、その時の本人の反応に合わせた対応もしている。	利用者への対応だけでなく、職員間の会話や行動にも注意し、個別と平等に配慮しながら、人格の尊重に徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのような思いに対しても否定せず受容し、傾聴したり相談しやすい場面を作っている。迷っている時は本人にわかりやすく説明をしたり、アドバイスすることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その中でも個々のペースを尊重している。又、入居者の方からの希望が多いこともあり、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて基礎化粧品を用意して本人が整容できるよう促したり、好みの色の服を選んでもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、メニュー作り、準備、後片付けまでほぼ全ての過程で入居者と共に行うよう取り組んでいる。個々の能力を活かしたり引き出すことができるよう配慮し、失敗や間違いは目立たないようにしている。	固定的な献立はなく、都度利用者の希望や食材と相談して調理している。職員も同食同席で、利用者のお手伝いも自由にお願している。法人全体で食事コンテストがあり、味覚や視覚を満足させ、季節感等を盛り込んだ食事になるよう職員で協力して取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせ、刻み食や代替品を提供している。1日の食事量や水分量を把握し、足りていない場合は捕食や好みの物を提供し無理なく必要量を確保できるよう取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の助言から歯間ブラシをしたり、個々の口腔状態に合わせている。自ら口腔ケアを行う方は一人のみで、他の方は本人の力でできるような手伝ったり、仕上げ磨きをするなど支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、個々の排泄パターンに合わせて事前にトイレ誘導を行なっている。パット内の汚染を減らしたり自力でトイレで排泄できるよう取り組んでいる。個々の状況に合わせて布パンツや軽失禁用パットも使用している。	排泄はトイレで行う事を基本とし、排泄サインや時間等の適切な誘導で、また個の特性に合わせたパンツや補助用具も使用し、気持ちの良い排泄となるように心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	契約している薬局によって便秘について勉強会があり、改めて個々の状態について見直し、ホームでできる便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくり入りたい、午後が良い、仲の良い方同士と一緒に入りたいといった要望などにも随時対応している。1番目の方には好みの入浴剤を選んでもらったり、入浴後も会話する機会としてゆっくりと過ごしてもらっている。	毎日が入浴日として、毎日お湯を張り、いつでもだれでも入浴が可能な体制を維持している。入浴日を固定しない事で、入浴時や入浴後の会話がゆったりと行われ、楽しいお風呂となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の照明の加減や寝具もその都度、本人の希望に合わせて安眠に繋がるよう支援している。個々の習慣や様子に合わせて休息を促して柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と契約しており、個々の薬について詳しい説明があり、相談できる環境にもなっている。薬についての勉強会もあり、理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人からの希望が多くあるのが現状で随時、柔軟に対応している。遠慮がちな方にはこちらから楽しみとなることを促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に可能な限り沿えるよう、毎月アンケートを実施し行事立案に反映させている。買い物や外出の希望があった場合は他の階の友人を誘ったり、目的に合わせて参加者を募り実施することもある。本人の希望によっては家族が目的地に連れて行く場面もある。	法人から外出用に週に2回、車が運転手付きで貸与されており、自由に使うことが可能で、職員もその機会をフルに利用して、毎月の外出レクを作成している。また利用者個人の希望もアンケートや直接の聞き取りで把握し、買い物や見物等々個に沿った支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時は入居者に支払いを促すことが多い。予算を決めて考えながら買い物をしたり、つり銭をレシートと照らし合わせ確認するなど、個々の能力を発揮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は速やかに対応している。職員が用事があって掛けた場合も最後は本人に代わって話しをしてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者達が主体となり季節に合わせた草花や、皆で創作した貼り絵を飾っており自然な感性で装飾が行なわれている。装飾や明るさなども職員が一方的に行なわないよう配慮している。また、職員は温湿計を確認したり適時換気をするなど寒い、暑いといった要望が極端な環境でさりげなく空調管理している。	居間兼食堂は広く採光も良く、各所とも温度や湿度も適性に管理維持されている。居間の壁には行事の写真が貼られ、季節感のある装飾もあり、ゆっくりと落ち着いて過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	様々な場所にソファを配置し、一人になれたり、皆で過ごせる空間を作っている。一人でゆっくりと過ごしている時は遠くからさりげなく見守りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が中心となり、思い思いの好みの物や馴染みの物を配置している。重度の方は職員が本人の反応を見ながら、居室で過ごす時間が心地良いものとなるよう、家族と協力し作り上げている。	居室は馴染みの家具や好みの小道具が家族の協力により持ち込まれて、快適に暮らせるよう居心地の良い自分の部屋となっている。いつも利用者の意見や反応を勘案しながら、家具の配置やベッドの向き等を検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に共用部は環境整備の際にも仕様を大きく変えず、入居者の能力が継続して発揮できるよう配慮して、自立支援に繋げている。		